



3人に1人が認知障がいを発症する時代に。

厚生労働省によると、2040年の認知症高齢者数は584.2万人、軽度認知障害（MCI）*高齢者数は612.8万人と推計されています。つまり、高齢者の3人に1人が認知症か軽度認知障害（MCI）になると予想されています。

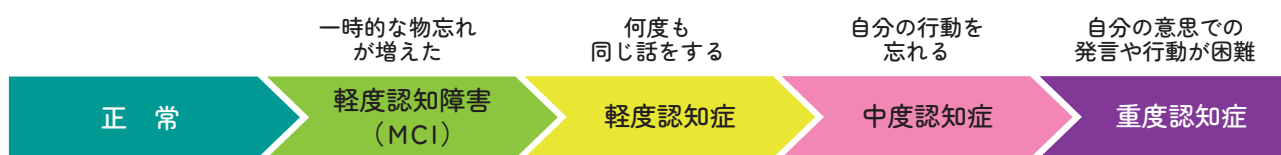
解説 軽度認知障害（MCI）とは？

記憶障がいなどの軽度の認知機能の障がい認められるが、日常生活にはあまり支障がないため、認知症とは診断されない状態。MCIの人のうち、年間で10%から15%が認知症に移行するとされています。



早期発見・治療で 効果的に進行を遅らせられる。

近年は、「レカネマブ」や「ドナネマブ」など、認知症の原因物質である「アミロイドβ」を脳内から除去して進行を遅らせる疾患修飾薬（抗アミロイドβ抗体薬）が開発され、早期段階であれば症状の進行を抑制できるようになりました。認知症は、決して「不治の病」ではなく、「早期発見して治すことが可能な病気」へと変わりつつあります。

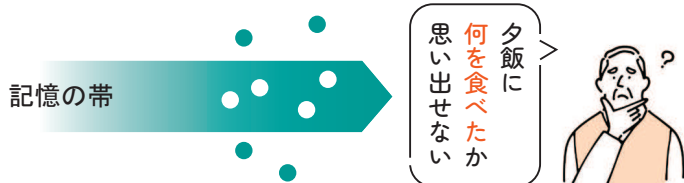


※症状には個人差があります。

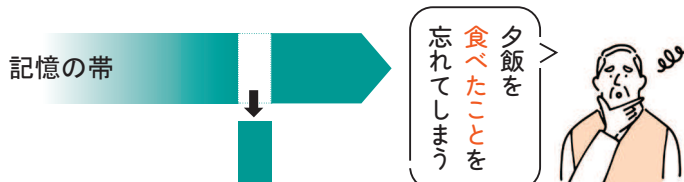
この段階で治療できると効果的！

加齢による物忘れと 認知症による物忘れの違い

加齢による物忘れ 記憶の一部を忘れる



認知症による物忘れ 記憶の全部を忘れる



軽度認知障害（MCI）チェックリスト

- ☐物をどこに置いたか分からなくなる
- ☐5分前に話したことが思い出せない
- ☐「いつも同じことを聞く」と言われる
- ☐今日の日付を思い出せない
- ☐買い物で支払いがスムーズにできない
- ☐言葉がすぐに出てこない
- ☐慣れた場所で迷うようになった
- ☐怒りやすくなった

いくつかあてはまる場合は
白鷹町地域包括支援センターに
相談することをおすすめします。





「いつか、私も認知症になる」
そう向き合うことができれば、
これからの備えは見えてくる。
いざ、その時が来ても
自分らしく生きていける——

— 特集 —

私も、いつかは認知症。

「認知症」は誰もがなりうる「脳」の病気。

年をとるごとに、発症のリスクは高まり、高齢化が進む日本では、発症者が増加している病気でもあります。

自分、家族、親しい友人——

いつ、誰が、認知症になるのかはわかりません。

「もし、認知症になったらどうしよう」

「認知症にはなりたくない」

そう不安になることもあるでしょう。

認知症に関する知識や治療方法などは、

ここ数年で劇的な変化が起きています。

正しい知識を身につけ、「いつか迎えるその日」のために備えることが大切です。

たとえ認知症になっても、自分らしく生きていける——

そんな希望が持てる地域となるために必要なのは、

認知症に関わる方だけでなく、今はそうではない方でも

認知症を「自分ごと」として考えること。

9月は「認知症月間」です。

認知症の基本知識と地域での取組から、

安心して過ごせる社会を考えてみましょう。